

児童アンケート結果

	質問項目		R5後期					R5前期	増減	
			A	B	C	D	A+B	A+B		
生徒指導 他	1	学校へ行くのは楽しい。	人数	31	19	3	4	50	57	↓
			%	54.4	33.3	5.3	7.0	87.7	96.6	
	2	自分には、よいところがあると思う。	人数	24	26	5	2	50	58	↓
			%	42.1	45.6	8.8	3.5	87.7	98.3	
	3	自分の役割に責任をもち、仕事をがんばっている。(委員会 係活動 そうじ 給食当番)	人数	40	14	3	0	54	58	↘
			%	70.2	24.6	5.3	0.0	94.7	98.3	
	4	自分の目標に向かって、努力している。(夢の木 目標やめあて)	人数	39	15	3	0	54	59	↓
			%	68.4	26.3	5.3	0.0	94.7	100.0	
5	友だちとなかよくしたり、助け合ったりしている。	人数	36	13	1	0	49	51	→	
		%	72.0	26.0	2.0	0.0	98.0	96.2		
6	友だちにいやなことをしたり、いじめたりしていない。	人数	41	10	4	2	51	56	↓	
		%	71.9	17.5	7.0	3.5	89.5	94.9		
7	地域や家庭、学校であいさつができています。	人数	40	11	5	1	51	57	↓	
		%	70.2	19.3	8.8	1.8	89.5	96.6		
8	学校のきまりを守っている。(廊下を走らない。給食は、静かに食べる等)	人数	26	25	6	0	51	52	→	
		%	45.6	43.9	10.5	0.0	89.5	88.1		
学力向上・ 学校研究	9	チャイムと同時に号令・ベル学・ふり返りができている。	人数	18	30	7	2	48	55	↓
			%	31.6	52.6	12.3	3.5	84.2	93.2	
	10	話すルールができています。 ・友だちに向かって位置を変えて話す。	人数	37	19	1	0	56	57	→
			%	64.9	33.3	1.8	0.0	98.2	96.6	
	11	聞くルールができています。 ・友だちの話を体を向けて最後まで聞く。	人数	34	21	1	1	55	54	↗
			%	59.6	36.8	1.8	1.8	96.5	91.5	
12	授業では、友だちや先生と課題をつくれるようになってきた。	人数	29	23	1	4	52	58	↓	
		%	50.9	40.4	1.8	7.0	91.2	100.0		
13	自分の考えをノートに書いたりまとめたりすることができるようになった。	人数	33	17	4	1	50	40	↗	
		%	60.0	30.9	7.3	1.8	90.9	87.0		
14	朝学習やドリルタイムでの活用問題が、解けるようになった。	人数	24	23	5	3	47	51	↓	
		%	43.6	41.8	9.1	5.5	85.5	91.1		
授業	15	授業は分かりやすい。	人数	36	14	5	2	50	58	↓
			%	63.2	24.6	8.8	3.5	87.7	98.3	
	16	先生は、分からないことがあると、ていねいに教えてくれる。	人数	42	7	5	3	49	57	↓
%			73.7	12.3	8.8	5.3	86.0	96.6		
17	先生は、ほめたり、はげましたりしてくれる。	人数	44	6	5	2	50	57	↓	
		%	77.2	10.5	8.8	3.5	87.7	96.6		
家庭学習	18	学習したことが、よく分かるようになるための自学ノートを書いている。	人数	28	18	7	2	46	40	↘
			%	50.9	32.7	12.7	3.6	83.6	87.0	
19	時間を決めて計画的に家で宿題をしている。	人数	30	14	7	6	44	48	↓	
		%	52.6	24.6	12.3	10.5	77.2	82.8		
表現力	20	授業や行事で自分のまとめたことや練習したことを発表できた。	人数	30	23	3	1	53	56	→
			%	52.6	40.4	5.3	1.8	93.0	94.9	

※ 表中の A ～ D については、以下の通りです。

A：あてはまる B：どちらかといえばあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない

※ 矢印は、肯定的回答（A+B）の増減を表しています。

 5ポイント以上 上昇	 3～5ポイント上昇	 同程度
 5ポイント以上 下降	 3～5ポイント下降	

<生徒指導 他について>

生徒指導の質問項目に限らず、児童アンケートでは全体に肯定的回答が減じた結果となりました。赤色の下矢印は5ポイント以上の減少を示していますが、本校の全校児童は60人ですので、赤の下矢印の項目では、4人以上の児童が肯定的回答から否定的な回答に転じたこととなります。

生徒指導では、質問項目2「自分にはよいところがある」の割合が減っているのが特に気になります。私は赴任して以来、押水第一小学校の児童は大変素直で、何事においても粘り強く一步一步努力していくことができるとも素晴らしい資質に満ちていると感じてきました。「できた」か「できない」かの二元論で結果のみに注目して一喜一憂するのではなく、活動の中で自分がどのように頑張ったか、自分はどうか成長することができたのか、その活動の過程も児童自身がしっかりと見つめていけるような取組になるよう今一度心がけていきたいです。

<学力向上・学校研究、授業、家庭学習、表現力について>

保護者アンケート結果でも記載しましたが、本校では今年度、研究テーマに沿って、教師が明確に問題解決の道筋を示していくこれまでの授業スタイルから、児童が自分の考えをもって友達と対話し、自分たちで問題解決していく授業スタイルを多く導入してきました。これによって児童の負担が増大したことも影響しているのではないかと分析しておりますが、「自分の考えをもつ」「仲間と対話しながら協力して問題解決していく」等の力は、これからの社会でますます必要となってくるものと考えます。授業における児童の困り感に寄り添いながらしっかりと支援し、児童が自分の考えをもって仲間と協力しながら学びを深めていくわかりやすい授業の実現に努めていきたいです。